

原稿執筆中の今日は、お盆明けの16日の蒸し暑い日です。台風10号が午後遅く北上するため災害対策の準備を整える課長会議を午前中に行い、暴風雨への備えと点検を済ませました。安全を祈りながら最悪の事態に備える準備が行政の仕事となります。町長として現場に行く事はほとんどありませんが、今何が起きているのかという情報収集と分析は、現地のイメージを持っていなければなりません。災害の時期をはずして、それらの要所をまわろうと思います。10日には一日延期された盆踊りが雲の切れ間を縫って盛大に行われ、今年の豊作が祈願されました。このまま行けば9月の早い時期から稲刈りが始まる可能性があります。保育所ホールでは今年からエアコンを導入しましたが、この猛暑を上手に乗り切って、園児たちが健やかに育つことを願っています。保育の現場で汗を流している関係者の皆様に、心より感謝を申し上げます。

町長 田中一史

モー突進レポート

翔 SHOW TIME たいむ

vol.4



今回の翔たいむは町指定文化財に指定されている獅子舞を体験させてもらおうと、子ども獅子舞教室の練習に参加させていただきました。妹背牛町の歴史とともにある獅子舞を体験し、より深くこの町を学びたいと思います。



今回は秋祭りなどへ向けて練習中の子ども獅子舞教室に参加させてもらい、獅子舞を体験しました。

獅子舞保存会は昭和8年に発足し、現在は会員約30名。郷土芸能妹背牛獅子舞の伝統を守り続けています。

獅子舞はもちろん見たことがありますが、実際にやってみるのは初めて。ワクワクしながら練習が行われる町民会館へ行きました。早速使われている獅子頭を持たせてもらおうと思っても外にも思っていたよりずっしりとしていました。

これを生きているかのように繊細に動かしているなんて「長年、舞を続けている保存会の方々のなせる技なのだ」と感じました。



近くで見るとより迫力があります

天狗の踊りの練習が始まり、今年初めて参加するという子どもたちと一緒に一番簡単な動きを習いました。基本的な動きはみんな同じなのですが、これが単純ながら頭を使います。

次は笠踊りにも挑戦。見よう見まねで踊ってみたのですが、笠をくるくる回すのがどうもうまくできない…。手先が不器用な自分には難しかったです。実際に体験してみると、

動きは単純でも何回繰り返し返すか覚えるなど、頭を使います



笠がうまく回せていません…

妹背牛町獅子舞保存会

狗も笠踊りも「単純に見える中に細かい技術や知恵が受け継がれているのだな」ということが分かりました。

指導に来ていた吉澤良二会長に話を伺うことができました。

「近年は少子化の影響か獅子舞をやってくれる子どもたちも減ってきています。獅子舞に触れる機会を増やして興味を持ってもらえるようにしていきたいですね。この文化を絶やしたくありませんから」。



神輿と共に町内を回る獅子舞の笛や太鼓の音が聞こえると「そうか秋祭りか」と気づかれます。妹背牛町に住む皆さんの中にも同じように思う方がいらっしやるのではないのでしょうか。それだけ町に根付いている獅子舞。これからもなくしてはならない存在として継承されていくことを願っています。